

北欧のテキスタイルに魅せられて、フィンランドに拠点を移した浦 佐和子さん。フリーランスのテキスタイルデザイナーとしてmarimekko に作品提供するなど、活動の幅を広げている。どのような経緯で現在に至ったのか。また、創作への思いを聞いてみた。

構成・文：内田真由美 Uchida Mayumi

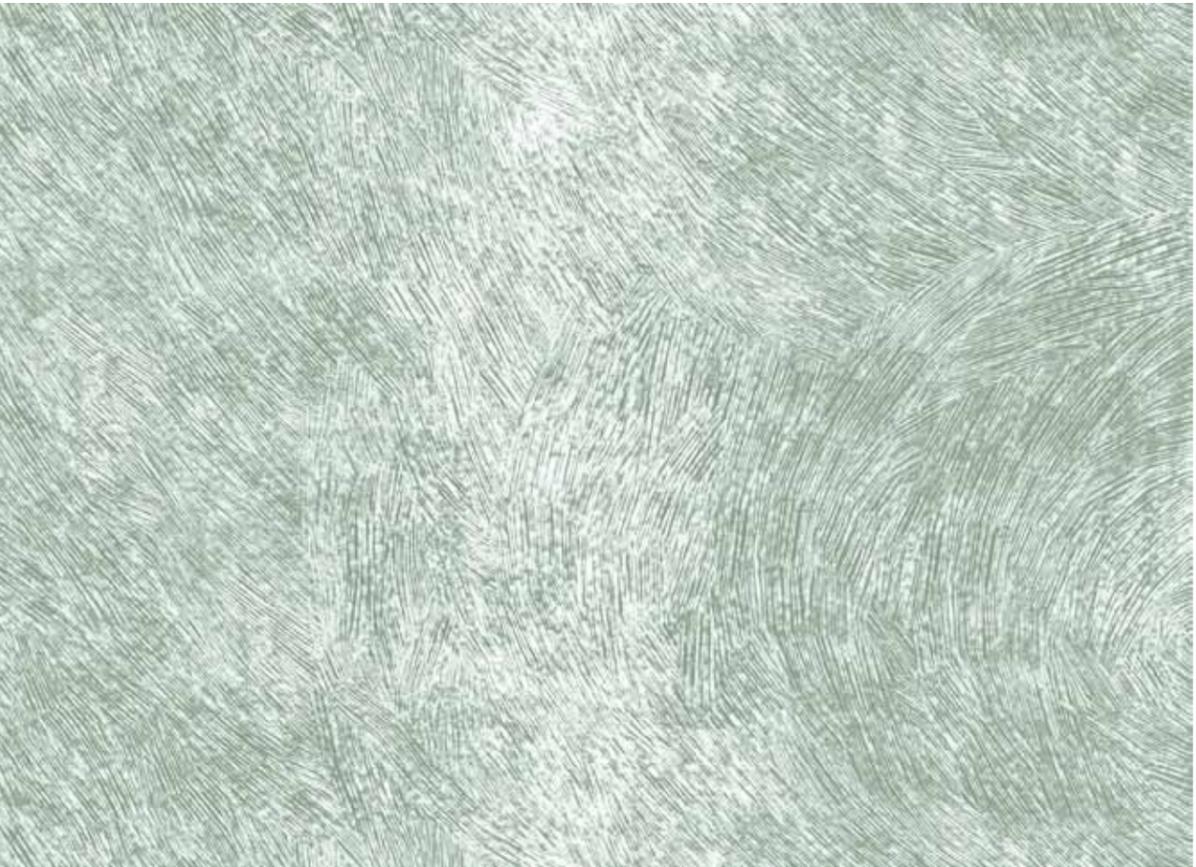
#### URA SAWAKO / INTERVIEW

フィンランドの自然に魅せられて

武蔵野美術大学に在学中、卒業したら海外へ留学することを検討していました。大学では主にアーティスティックなテキスタイルの作品をつくっていたので、それをベースに、もっと商業デザイン側のテキスタイルを学びたいと考えていたからです。

留学先を探していたところ、テキスタイルデザインが根づいているフィンランドに興味がありました。当時はmarimekkoの直営店が表参道にオープンしたばかりの頃。大学3年生の時、情報収集やリサーチを兼ねてヘルシンキに2週間ほどホームステイをしました。人や街、自然や環境……。私はヘルシンキにすっかり魅了されてしまい、大学卒業後の2008年に、ヘルシンキ芸術大学（現 Aalto 大学）の大学院に留学することを決めました。

ここでの暮らしは、治安も良く街の人も親切。快適に暮らしています。人口も少なく、私の住む首都ヘルシンキでも自然がたくさんあって、のんびり過ごすことができます。たまに退屈に思う時もありますが、それによって物事をシンプルに考えるようになりまし、自分の制作活動に集中しやすい環境だと思います。



URA SAWAKO

## 浦 佐和子

線と点の集積で、  
自分の中の記憶の風景を表現する。



常に変化する自然の美しさを表現したい

フィンランドのテキスタイルデザインは、どこか素朴というかシンプルだけれどスタイリッシュになりすぎないのが魅力だと思います。布一枚で存在感があつて勝負できる。大胆な色づかいもフィンランド人の感性ならではののだと思います。

marimekko は、私の夢であり憧れです。一緒に仕事ができただけは本当に光栄です。グラフィカルで大胆な色づかいの印象が強いですが、常に新しい感性を受け入れている柔軟性があり、さらに魅力を増していると思います。

テキスタイルデザインは、紙の上とは違い、手に触れられ、形を変えられるところが特徴です。そして、自分の描いたものが布となり人々の暮らしの中や、服として身にまともってもらえることに面白さややりがいを感じます。

私が、制作の中で一貫して持っているコンセプトは、記憶の中の風景です。単純な形を集積させることによってできる力強さや、それによってできるリズムや動きが、変化する自然の美しさを表現することに繋がるのではないかと考えています。またフィンランドで感じた、自然の静けさの中にある力強

さのようなものを表現できればと考えています。

今後も、見ているだけで心が躍るような、魅力のある作品をつくり続けていきたいです。また、プリントデザインだけに留まらず、色々な可能性に挑戦し、日本にも還元していけるよう、活動していきます。！



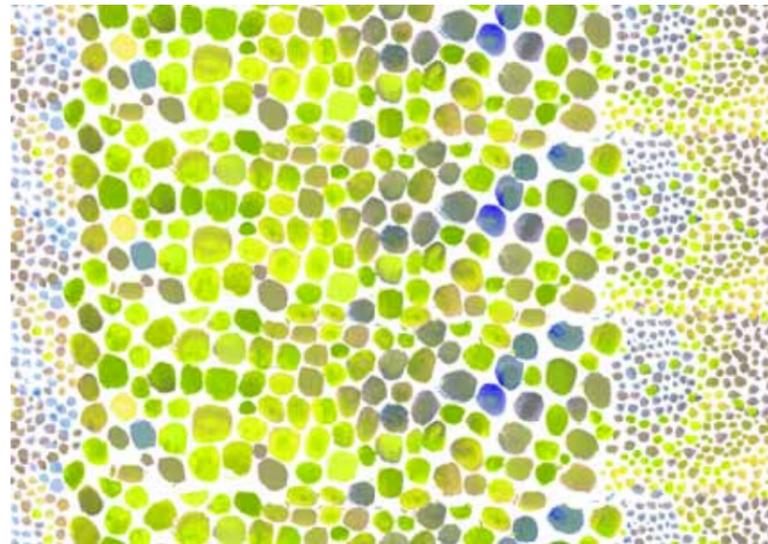
Republic of Finland

#### PROFILE

1986年生まれ、東京都出身。2008年武蔵野美術大学を卒業後、フィンランドに拠点を移し2011年にAalto大学の修士号を取得。その後フリーランスとして活動。主に自然の美と記憶の中の風景をテーマに制作をしている。グループ展やコンペティションにも積極的に参加し、2010年HeimTextile (フランクフルト) に出展。また、2010年に行われたcocca 主催のTextile Print Festival2010にて入賞を受賞。  
<http://www.sawakoura.com/>



クリスマスの季節をイメージしたもので暗い中にひっそりと浮かびあがるように咲く花をペンのにじみを使って描いた



アクリルガッシュで描いた。普段歩いている石畳から形のヒントを得てデザイン。ドットの色と形に動きがあるように表現した。インテリアだけでなく、服地にも使えるイメージに

## FINLAND LIFE

フィンランドの魅力は、まずは自然が身近にあることだと思います。少し歩いたら自然豊かな公園があったり、すぐ森があったり。北欧特有の空の広さや、色、光の美しさはとても魅力的です。

微妙な自然の変化の美しさや色合いだったり。そういう何とも言えない自然の佇まいみたいなものに私はとても惹かれます。夏は日が長く、緑と光にあふれているので、まるで天国のような美しさがあります。逆に冬は長く厳しく、雪が降る前はどんより灰色なのですが、雪が降ると空気が澄んで透き通るような美しさがあります。



自宅の窓から見えるお気に入りの風景



いつも通る自宅の近くの橋から見える風景。ヘルシンキで一番のお気に入りの場所



自宅の作業デスク



自宅で飼っている鳥たち

愛用の画材▶  
サクラクレパス、VAN GOGH オイルパステル、コピックペン、STABIRO 水性ペン、デザイナーズカラー



villisika (イノシシ) 前ページ右上、tunturipöllö (白フクロウ) 前ページ右下、tiikeri (トラ) 上。marimekkoに採用されたデザイン原画。3つで一つのコレクションになっていて、全体のコレクションタイトルは「Signs in the forest (森の気配)」。連続的に変化する自然の美しさ、自然の痕跡や気配のようなものを表現した



大きなフィールドや社会をイメージしてデザイン。コピックペンとフェルトペンを使って描いたもので、ペンが乾かないうちに何色が重ねてにじみだして色に深みを出しているのが特徴。どこを切り取っても面白いように構成を検討

## SAWAKO URA HOW TO DESIGN

主な手法として、まずクレヨンで色の層をつくり、それを爪楊枝で削って線や点を描いています。描いた線から躍動感や動きが感じられるように心がけています。また、近くで見ても遠くで見ても見応えがあるものを目指しています。ペンを使う時は色を重ねてにじみをだして深みのある表現をしています。

色づかいは自分の感覚からくるものが多いですが、普段目にする自然からインスピレーションを受けることも多いです。テキスタイルデザイン(主にプリント)は基本的にリピートが存在するので、原画の時点で枠の中だけで完結するのではなく無限に続いていくことを想定しています。リピートすることによって新たに生まれるリズムや見え方の変化、それがプリントテキスタイルの醍醐味であるとも思っています。なので画面を越えて続いていくということを頭に置いて描くようにしています。

